神戸YMCA
YMCANews
みつかる。つながる。よくなっていく。
No.697 2024
8・9
2024年8月1日発行
1947年10月27日
第３種郵便物認可
発行所／日本ＹＭＣＡ同盟
東京都新宿区本塩町 2-11
ＴＨＥ ＹＭＣＡ神戸版
神戸ＹＭＣＡ
〒650-0001
神戸市中央区加納町 2-7-11
Tel 078-241-7201
Fax 078-241-7479
www.kobeymca.org
発行人／井上 真二
編集／本部事務局
印刷／(有)わかばやし印刷

年間聖句　「平和を造る人々は幸いである。」
マタイによる福音書５章９節（聖書協会共同訳）

神戸YMCA大会のご報告

6月22日（土）、神戸ＹＭＣＡ三宮会館にて2024年度神戸ＹＭＣＡ大会（総会）を行いました。2019年度から、総会を含む神戸ＹＭＣＡ大会として開催しており、神戸ＹＭＣＡに関わる人たちが法人を超えて、また同じ会員として一堂に会し、世代を超えてつながり、共に神戸ＹＭＣＡの歩みを確認し、未来に向けて語り合い、交わる機会と位置付けています。

2024年度も神戸キリスト教青年会につながる常議員会、各委員会、同じく会員である職員で実行委員会を立ち上げ、神戸ＹＭＣＡ大会の在り方を語り合い、意見を出し合い、思いを形にするために話し合う過程を経て、最終的に二部制で開催することが決まりました。

第一部　総会

2024年度から新たな形で神戸ＹＭＣＡの３法人をつなぐ運動と事業を担う常議員・監事の選任が決議されました。続いて青年会、設置法人を通して2023年度の神戸ＹＭＣＡの全体報告がなされました。特に三宮会館と余島野外活動センターおよびキャンプ場については別途報告がなされました。

また、2024年度に向けて、世界ＹＭＣＡと神戸ＹＭＣＡが共に目指す「VISION2030」が中道基夫会長から語られました。

神戸ＹＭＣＡの取り組みについては、【若者のつながりと関わりを拡げるプラットフォームの場をともに創る】を実践されている会員から「日本語サポートプログラム」でのボランティア活動とその喜びについて、太山寺児童館ボランティアグループ「まほうのハッぱー」からは大学生による活動の実際について、たかとり児童館ボランティアグループ「おはなしプレゼント」からは絵本を用いたボランティアの歩みについて、また、職員からは、能登半島地震支援のリーダー活動について報告がなされました。

第二部　YMCA EXPO

会員相互の交わりを深める機会の共有（会則第26条）のために、実行委員会が協議を重ね、2024年度は「ＹＭＣＡ ＥＸＰＯ」の開催を決定しました。①ＹＭＣＡ活動にふれる機会：多岐にわたるＹＭＣＡ活動を知ろう、語り合おう、②仲間と出会う場、つながる場：人が集まるＹＭＣＡ、をコンセプトにしたもので、参加された会員・職員の皆さんが各ブースを回り、神戸ＹＭＣＡのさまざまな活動の実際を見て、体験して、語り合う機会となりました。

自身が体験している、所属している領域だけではなく、ＹＭＣＡにはさまざまな活動の機会があること、またそこで人と人とが交わり、豊かになり、受け手から担い手に変えられていく機会であることを楽しみながら体験し、知る機会となりました。

大会を通して

ＹＭＣＡの活動や事業の幅は多岐にわたっています。実行委員会では、ＹＭＣＡで人と人とが出会い、つながり、新たな可能性が拡がってきた歴史を知り、これからの時代に向けてＹＭＣＡが担うべき責任、役割のヒントを考える機会となるようにと願い、準備をしてきました。事業領域が拡がり、職員でさえもお互いの活動の強みや特徴を知ることが難しくなってきています。しかし、それぞれの中で、単なる利用者ではなくＹＭＣＡの会員としての種が蒔かれています。その種が芽生え、未来にさらに大きな実を結ぶよう、拡がるようにと「ＹＭＣＡ ＥＸＰＯ」を開催しました。

総会だけの形からＹＭＣＡ大会となり、会員の方々に報告・共有すべきことをお伝えすると同時に、その実際を体験することによってＹＭＣＡの拡がり、つながりの一人であることを実感していただき、その結果が、これからの時代の中でのＹＭＣＡのあるべき姿につながっていくことを願っています。

神戸YMCA大会実行委員会担当主事　岩井 義矢

2024年度神戸ＹＭＣＡ大会を終えて ～会員表彰とリーダー委嘱式～

神戸ＹＭＣＡ大会で会員の表彰者の紹介を行いました。また、リーダー委嘱式では余島、三宮、西神戸、西宮の各リーダー会の代表者へ、中道基夫会長から委嘱状が手渡されました。

名誉会員

名誉会員とは、通算20年以上神戸キリスト教青年会（神戸ＹＭＣＡ）の維持会員で、ＹＭＣＡの発展に特に貢献があった方の中から、常議員会の推挙を受けられた方です。今年、新たに次の皆さまが名誉会員になられました。

名田 敦子さん、大林 冨雄さん、若林 成幸さん、長澤 百合子さん、吉田 透さん、佃 治子さん（順不同）

ボランティア奨励賞

ボランティアとして特に顕著な貢献をなされた個人・団体です。各部門の責任者等から推薦を受け、常議員会にて推挙されました。

まほうのハッぱー（太山寺児童館ボランティアグループ）、おはなしプレゼント（たかとり児童館ボランティアグループ）、
櫻井 英子さん（日本語サポート）（順不同）

※櫻井英子さんのインタビューを次ページに掲載しています。

中道基夫会長より
若林 成幸さんへ名誉会員証の授与

中道会長とまほうのハッぱーのお二人

中道会長と各リーダー会代表者

ウォーターセーフティーデー（水上安全の日）

ウエルネスセンター学園都市・ファミリーウエルネスセンター

日本におけるＹＭＣＡアクアティックプログラムの始まりは、1917年（大正６年）にまで遡ります。小グループを対象とした初心者水泳指導を主流とし、その目的は単なる泳法の伝達ではなく、「水の体験」を積み上げていくことでした。また、水泳の上達のためには空中で吸い、水中で吐くというリズムを早くから身につける必要があるとの考えから、顔つけ、浮く、沈む、進むといった水中での一連の過程を体験できるクロールを中心とした指導を行っています。

アクアティックプログラムには５つの目的があり、その一つに「安全思想の理解と水上安全技能の習得」があります。神様から与えられたかけがえのない「生命（いのち）」を守り育てること、水難事故を未然に防ぐことを願い、毎年６月の第３日曜日を「ウォーターセーフティーデー」と定め、全国のＹＭＣＡで水上安全プログラムを実施しています。神戸ＹＭＣＡでも、親子で参加する心肺蘇生法講習や、25mチャレンジなど、さまざまなプログラムを行いました。「自分のいのちを守り、みんなのいのちを大切に」できる人を育てていきたいです。

活躍する卒業生！

神戸ＹＭＣＡ学院専門学校 ホテル学科

ホテルで活躍する卒業生にインタビューを行いました。協力いただいたのは、2018年に「インターコンチネンタルホテル大阪」に入社したライ スニタさんです。

――学校で学んだことで、現在の仕事に生かされていることはありますか？

すべて役に立っています。特に、夏と冬の実習でテーブルマナー、テーブルサービス、ゲストとのコミュニケーション、ホスピタリティなどいろいろな経験ができたことが、今の私の自信につながっています。

――ホテルで働くにあたって特に意識したことは何ですか？

なによりもゲストに満足していただくことです。そのために一生懸命仕事を覚えて頑張りましたが、それが大きなプレッシャーになり、仕事に対するやりがいを無くした時期もありました。

――その時期をどのように乗り越えたのですか？

まずは自分の強みと弱みを知ることが大事だと考えました。それがわかれば接客の方法も変わり、ゲストの満足につながり、さらに自分も幸せな気持ちになり自信がつきます。また、仕事をするときは必ず目標を立てるようにしました。そのことで仕事にやりがいを感じ、働くことが楽しくなってきました。今はホテル内のレストラン「ノカ ロースト＆グリル」のキャプテンを任されています。

――後輩に一言お願いします。

仕事で落ち込む日や、嫌なこともあると思いますが、ポジティブな気持ちを忘れず、前向きに頑張ってください。

――ありがとうございました。

灯台 Light House　No.42　総主事　井上真二

ウェルビーイング（Well-being）

2024年春、武蔵野大学が日本初のウェルビーイング学部を開設したことがニュースとなり、ウェルビーイングという言葉をよく目にするようになりました。この言葉自体は、1946年のＷＨＯ（世界保健機関）設立時に以下のように記述されています。

Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.（※下線は筆者による）

「健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。」（日本ＷＨＯ協会仮訳）

SDGsの目標３には「すべての人に健康と福祉を」とあり、世界ＹＭＣＡのVision2030の４つの柱の中にも「コミュニティー ウェルビーイング」があります。環境、紛争、パンデミック、貧困等の世界的な課題に直面し、持続可能な社会へと変わろうとする中で、身体の健康と同等にメンタル面の健康も重視されるようになり、ウェルビーイングがさらに注目された背景があります。

ＹＭＣＡの正章は、赤い逆三角形に「SPIRIT」(精神)、「MIND」(知性)、「BODY」(身体)の３つを記したもので、これら３つが調和した全人的な成長を目指すことを表しています。世界のＹＭＣＡ共通のこのマークは、まさにウェルビーイングを表しているのです。

REPORT

西神戸ＹＭＣＡ幼稚園　神様にふれるとき

6月。西神戸ＹＭＣＡ幼稚園で聖書のおはなしをしてくださる柳本和良（かずよし）先生のおられる日本基督教団鈴蘭台教会へ年長児が訪問させていただきました。

おうちのベランダやお庭に咲いたお花を持ち寄って「花の日礼拝」を守りました。バスを降りて教会の中に入ると、教会の持つ温かい雰囲気がこどもたちの身体を包み込み、こどもたちは静かに席に着いていきました。美しいステンドグラスの光が温かさを増していました。「父、子、聖霊の交わりがこれからも豊かにありますように。アーメン。」柳本先生から一人ひとり頭に手を置いていただいて、祝福を授かりました。

一人ひとりはお父さん、お母さん、神様から愛され見守られている大切な存在です。こどもたちにとって、神様をより近くに感じられた礼拝だったのではないでしょうか。良い機会を与えていただき、柳本先生をはじめ、教会の方々にも感謝いたします。ありがとうございました。

香櫨園留守家庭児童育成センター　いつもと違う１週間

2024年度が始まりました。5月は季節外れの台風もありましたが、新1年生も育成センターでの生活に慣れ、勉強や遊びに全力の毎日を過ごしています。

また5月は、27日（月）から31日（金）の５日間、中学２年生の４名がトライやる・ウィークの職業体験で育成センターを訪れました。昔、育成センターに通っていた生徒もおり、「先生、ひさしぶり」と、ひさしぶりの育成センターに懐かしさを感じながら、それぞれに成長した姿を見せてくれました。

期間中は「こどもたちが帰ってきたら挨拶をする。」「宿題に困っている子を助ける。」など、一人ひとりがどのようにこどもたちと関わるかを考え、課題を持ちながら活動していました。

短い期間でしたが、育成センターのこどもたちにとっても普段関わることのないお兄さんお姉さんと過ごすことができ、刺激の多い日々だったのではないでしょうか。

こくさいのまど　国際ボランティア（日本語サポート）櫻井英子さんインタビュー

日本語サポートとは、神戸ＹＭＣＡ学院専門学校日本語学科に在籍する外国人留学生と１対１で会話練習を行うプログラムです。櫻井さんは2024年度神戸ＹＭＣＡ大会でボランティア奨励賞の表彰を受けています。

――日本語サポートを始められたきっかけを教えてください。

英語で仕事をしていた経験があり、英語能力を活かして何か役立てることがないかと考えていたところ、YMCAが日本語サポートを募集しているのを知り、自分の経験やスキルを活かして国際貢献ができると思ったのがボランティアを始めたきっかけでした。

――日本語サポートを行う上で大切にされていることはありますか。

これまで10名の学生をサポートしてきました。日本語サポートの時間は、日本人との会話に慣れてもらうことが大切だと思っています。間違えたり、勘違いしたりすることもありますが、単語を並べて話し続けることで日本人と会話するコツをつかみ、自信がついてきます。留学生の皆さんは、日本に来てまだ数ヵ月しか経っていないのですが、とても積極的に話してくださいます。私も中国やバングラデシュ、インドなどの文化を知ることができ、とても楽しい時間を過ごしています。

――最後に一言お願いします。

地域の皆さんも日本語サポートに加わっていただき、一緒に国際貢献活動ができるとうれしく思います。

YMCA STORY
優しい記憶のかけらたち

会員増強委員　須貝（すがい） 春香（はるか） さん

実家の部屋を片付けていてポロッと出てきたのはピンク色のコピー用紙で、手書き文字があれこれ印刷されている。何かと思えば野外活動のメンバー時代にもらっていたグループ新聞だった。

あまりお友達とコミュニケーションを取ることもではなかったようである。どうにか接触を増やそうとリーダー達が苦心してくださっていたのが読んでいてよく伝わってくる。それでもその当人、つまり私のほうはといえばＹＭＣＡから離れ難いと結局高校生まで活動を続け、大学に入ってからはリーダーもすることになる。

小学校2年生の頃、東京から兵庫へと引っ越してきて、いろんな居場所を持っていたほうが良いだろうと母が連れ出した先の一つがＹＭＣＡだった。私は確かにお友達と遊ぶことが得意ではなかったが、みんなで声を合わせて歌うと楽しいということや、ひとりで楽しんでいたとしても隣を見たときに同じく楽しそうにしている人がいるとうれしいということなど、野外活動の中では新たな発見が多々あった。

おそらく山登りの最中など、なんともいえない沈黙に気まずくなったこともあったはずなのだが、都合よく忘れることができている。

リーダーになってからのことは、あらゆる面においてもっと良い関わり方があっただろうと反省ばかり思い浮かぶが、そんな私と共に在ってくれたメンバー、リーダー、ディレクターへの感謝は絶えない。また、今思えば、どんな関わり方ができるか、どんな時間が過ごせるのかについて向き合おうとする時間が大学生のときに持てたことはかけがえがない。

今年36歳になる。私は自由だ。社会を生きる一員としての責任が存在するが、独り身で要職に就くでもなく打ち込むことがあるわけでもない。そういった自由の中の、自分のためだけに生きるということは、なんだか果てしがない。何かができるという自負もない。ただ、小さな関わりが、それがなんでもない忘れ去られるようなことであっても、個人にとって優しい記憶として寄り添ってくれることを知っている。

2023年度 YMCA国際協力募金 報告

2023年度も、ＹＭＣＡ国際協力募金におきまして、皆さまからの温かいご支援、誠にありがとうございました。皆さまから寄せられた募金は、総額で4,071,926円となりました。以下の通り、神戸ＹＭＣＡで用いさせていただくほか、日本ＹＭＣＡ同盟を通して支援や交流、育成、啓発等の活動へと充てさせていただきます。

国際協力募金に携わって下さったすべての皆さまに、改めて、心より感謝申し上げます。

【収　入】	
一般募金	1,860,730
指定募金	2,211,196
計	4,071,926

【支　出】	
日本ＹＭＣＡ同盟拠出金	350,000
東南アジア農村支援（ラオス）	100,000
東南アジアこども支援（口唇口蓋裂プロジェクト）	30,000
定住外国人子ども奨学金	180,000
ＣＯＤＥ・ＰＨＤ協会支援	100,000
神戸ＹＭＣＡ国際奨学金	240,000
国際活動リーダーシップ養成	386,133
オリーブの木／パレスチナ・ガザ支援	98,000
ウクライナ緊急支援募金	124,380
トルコ・シリア大地震災害募金	237,020
パレスチナ緊急支援募金	328,521
能登半島地震緊急支援募金	1,561,275
開発・国際理解教育	211,630
事務局経費	124,967
計	4,071,926

YYYフォーラム「市ヶ原わいわいハイキング」

リピーターも多いこのプログラム。ＹＭＣＡに関わる皆さんで、共に山を歩きながら会話や交流プログラムを楽しみましょう！

フォーラムを通して多世代のつながりを感じ、交流の輪が広がっていくことを願っています。申込の受付開始は、８月上旬を予定しています。初めての方のご参加もお待ちしています。

◆日　時：2024年9月21日（土）
　　※予備日は9月28日（土）です。
◆場　所：新神戸～布引の滝～市ヶ原
◆内　容：ハイキング、交流プログラム
◆参加費：無料

ワイズコーナー

YYYがWWWの関係で支援し合おう！

六甲部部長 小野（おの） 勅紘（ともくに）さん（西宮ワイズメンズクラブ）

私は2024-25年度の六甲部部長として、昨年の「ＹＭＣＡサービス・ユース事業主査」のテーマをそのまま引き継ぎます。「Ｙ（ＹＭＣＡ）Ｙ（ワイズ）Ｙ（ユース）が、Ｗ（ウィン）Ｗ（ウィン）Ｗ（ウィン）の関係で互いに支え合おう！」です。ワイズも支えてほしいのです。高齢化の進むワイズに若い息吹がほしい。「人生100年時代」に向けて、生き生きと！

私は高校時代にＹＭＣＡと出会い、35年間のブランクを経て今はワイズに復帰していますが、一般の方がＹＭＣＡを知る機会、ＹＭＣＡに接する機会が昔に比べて少なくなっているように感じます。

ワイズでは、年齢、性別、職業、学歴、住む地域、出身なども、また海外では国籍や宗教も違う人たちが集うのですから、当然衝突もあるでしょう。そんな違いこそがワイズの特徴です。だからまず違いを受け入れましょう。そして人の話を聴きましょう。「聞く」と「聴く」は違うものです。「聴く」とは「耳」に「目」と「心」を「＋」することです。そこには「口」は存在しません。「うなづき」や「あいづち」で充分です。あとは素直に楽しみましょう。その後には温かい握手と笑顔が待っています。

ワイズでは動機は何であれ、皆、仲間。全国に、世界に仲間がいます。80年前にあの賀川豊彦先生は国境のない「世界連邦」を提唱されました。定年のないワイズメンズクラブもそういう国境のない世界を目指しています。皆さまのお力をお貸し下さい。

感謝　寄附・募金

（敬称略、順不同）（前号掲載以降～6/13まで）

寄　附

堀田 牧子、原 寛、髙田 裕之、兼田 幸子、上杉 徹、神野 敬子、本城 智子、橋崎 良治、森本 英之、森本 のぶ子、田中 邦康、株式会社スリーエーネットワーク、ワイズメンズクラブ六甲部、西宮ワイズメンズクラブ

能登半島地震緊急支援募金

中山 豊美、豊田 仁気、坂本 淳子、紙谷 圭一郎、真島 香、西山 萌、山本 常雄、西神福音ルーテル教会、ワイっ子クラブ、ちとせＹＭＣＡ幼稚園有志、西神戸ＹＭＣＡ幼稚園バザー

国際協力募金

神戸ポートワイズメンズクラブ、西神戸ＹＭＣＡ幼稚園バス児有志

学生生活支援募金

杉原 賢治

この他にも、多数の募金・寄附をいただいております。感謝をもってご報告します。

神戸ＹＭＣＡ遺贈制度

神戸ＹＭＣＡを遺産の受取人に指定し、寄附いただく制度です。
神戸ＹＭＣＡは創立以来、多くの方々の物心両面からのお支えによって先駆的な働きを進めてまいりました。
大切な財産を未来に遺し、神戸ＹＭＣＡが今後も社会に必要とされる活動を展開できるよう、大切に役立ててまいります。

神戸ＹＭＣＡの使命

私たちは、すべてのいのちが尊ばれ、互いに支え合う平和な社会を創ります。

神戸ＹＭＣＡの願い

私たちは、世代を超えた人々が出会い、つながり合う場をつくり、日本ＹＭＣＡ基本原則に基づき豊かな未来を創造する責任ある人を育てます。
（神戸ＹＭＣＡ中期計画VISION2030）

ファミリーウエルネスセンター	☎078（241）7202	西神南ＹＭＣＡ	☎078（993）1560	学園都市ＹＭＣＡ保育ルーム	☎078（794）3045
ランゲージセンター	☎078（241）7204	須磨ＹＭＣＡ	☎078（734）0183	ユースプラザKOBE・EAST	☎078（891）8222
専門学校	☎078（241）7203	ＹＭＣＡ保育園	☎078（794）3901	神戸市立太山寺児童館	☎078（794）4790
西宮ＹＭＣＡ	☎0798（35）5987	西宮ＹＭＣＡ保育園	☎0798（35）5992	こべっこあそびひろば西神中央	☎078（964）5808
余島野外活動センター	☎0879（62）2241	西神戸ＹＭＣＡ保育園	☎078（792）1011	神戸市立たかとり児童館	☎078（735）6230
キャンピングサービスセンター	☎078（241）7216	神戸学園都市ＹＭＣＡこども園	☎078（791）2955	ＹＭＣＡ保育園おひさま分園	☎078（794）4080
国際・奉仕センター	☎078（241）7204	神戸ＹＭＣＡちとせ幼稚園	☎078（732）3542	おやこふらっとひろば西	☎078（939）4530
ウエルネスセンター学園都市	☎078（793）7401	ＹＭＣＡちとせ保育ルーム	☎078（786）3821	西宮市香櫨園留守家庭児童育成センター	☎0798（33）0214
西神戸ＹＭＣＡ	☎078（793）7402	西神戸ＹＭＣＡ幼稚園	☎078（997）7705	西宮市用海留守家庭児童育成センター	☎0798（35）1522
神戸YMCA高等学院	☎078（793）7435	西宮つとがわＹＭＣＡ保育園	☎0798（26）1016	西宮市浜脇留守家庭児童育成センター	☎0798（34）1444
ＹＭＣＡおひさま	☎078（793）9077	あかしこども広場	☎078（918）6355		